

# AFTERNOON TEA

昭和大学第一生理学教室

朝比奈 茂

## 第25回ユニバーシアード競技大会(IN BELGRADE 2009)

北海道大学大学院医学研究科生理学講座の山仲勇二郎先生より指名を受け、執筆することになりました。当初、私のような者が…と思いましたが、近況をお知らせすると共に、今後の意気込みを綴ってみたいと思い、筆をとっております。私は、平成8年に昭和大学第一生理学教室の普通研究生として久光正教授の指導のもと、研究活動に入りました。昭和大学第一生理学教室は、前教授の武重千冬先生の時から現在に至るまで、東洋医学分野、特に鍼・灸に関しての研究を一つの柱として行っており、その成果を国際学会および論文などで発表しております。私は鍼・灸・マッサージの専門学校に通っている時から、昭和大学第一生理学教室で行っている研究分野に興味があり、資格を得たと同時に第一生理学教室の門をたたき、入局を許可して頂きました。しばらくの間は、先輩方の実験を手伝い生理学の研究手法を学ばせて頂きました。3年ほど経った時に、「運動とβ-エンドルフィンの関係」についてラットの視床下部を対象として研究するよう教授より命じられ、これがのちの学位取得研究となりました。実験は、さまざまな条件下のもと、ラットを専用のトレッドミルで一定時間運動させ、終了直後に頸部を断頭器により切断開頭し、視床下部を摘出、液体窒素で一度凍結させたあとに視床下部をホモジナイズし、エライザによりβ-エンドルフィンを測定しました。ラットは夜行性のため、夜間に実験を行う事もしばしばありました。今振り返ると、成果がでず、途方に暮れた日々もありましたが、直接の指導教官であった浅野和仁教授の励ましや助言により、とても充実した実験であったことを思い出します。久光先生、浅野先生にはとても感謝してお

ります。この場をお借りして御礼を申し上げます。平成19年に何とか学位を取得し、現在はβ-エンドルフィンに関する実験は一休みしております。

話は少し変わって、現在私はセルビア共和国の首都であるベオグラードにおいて執筆しております。2年に一度開催される大学生のオリンピックと言われている、第25回ユニバーシアード夏季大会に参加しているためです。今大会はヨーロッパ地域での夏季大会としては10年ぶりとなるようで、日本からは総勢393名(役員・選手など)からなる選手団が今大会に臨んでおります。競技種目としては国際大学スポーツ連盟正式競技である10競技に加え、オプション競技のアーチェリー、テコンドーの2競技計203種目が実施されることになっております。私の役目はというと、男子サッカー競技のメディカルスタッフとして、選手の健康管理、コンディション管理、外傷・障害の管理などをチームドクターの清水勇樹先生(産業医科大学)と一緒にしております。男子サッカーというと先般、日本代表が2010年南アフリカで行われる大会に出場を決めました。歴代の日本代表にはユニバーシアードを経験した選手が数多くいます。将来の日本の代表の卵と一緒に大会に臨めることは私にとって大きな幸せでもあります。今日(6月28日)の午前中はオフ。選手もリラックスし



ていることでしょう。もうすぐ、初戦のフランス戦を控えています。何とか勝利し勢いをつけて5回目の優勝を勝ち取りたいと思います。

追伸：前期講義が行われているのにも関わら

ず、長期間出張させて頂いた昭和大学に感謝しており、この貴重な経験を日本に帰ったら昭和大学の学生たちに還元し、学生教育に役立てようと思います。

東京大学大学院医学系研究科細胞分子生理学教室

柏谷 英樹

東京大学医学部統合生理学教室の田村啓太君よりバトンを受け、Afternoon teaに執筆することになりました。柏谷（かしわだに）と申します。田村君の所属する統合生理学教室(旧第一生理学)と私の所属する細胞分子生理学教室(旧第二生理学)は同じフロアの隣同士の教室であり、田村君とは、合同の飲み会がある毎に酒を酌み交わしながら、次の脳生理学の展開から他愛のない話まで熱く議論しています。

さて、お酒といえば、私最近シングルモルト・ウイスキーにはまっております。もともとそれほどお酒に強いほうではなかったため、ウイスキーを自ら口にすることもほとんどありませんでした。しかし5年ほど前のある学会で某ウイスキーメーカーの研究員の方と「ウイスキーの香りとウイスキー酵母の関係」についての議論をしたのが縁で、すっかりウイスキー（の香り）の魅力にはまってしまいました。

シングルモルト・ウイスキーの原材料は麦、酵母、水のみです。麦を糖化、発酵させたウォッシュというビールのような液体を、さらに単式蒸留器で2~3回蒸留してできた原液を3年以上樽で熟成させたものがモルト・ウイスキーと呼ばれています。このモルト・ウイスキー、原材料がシンプルな割に、非常に多様な香気成分を含んでいます。

よく現れる香りとしては、バニラのような甘い香り、マーマレードのような柑橘系の香り、カナブンのような樹液の香り、たき火のようなスモーキーな香り、マンゴーのような南国フルーツ系の香り、干し草のような香り…どれをとっても麦や酵母からは連想できないような香りばかりです。特にスコットランドのアイラ島で作られるモルト・ウイスキーにはヨードチンキ（あるいは正露丸）のような香りがすることで有名です。不思議なことは、ヨードチンキそのものを嗅いでも決して（少なくとも私には）口にしたいと思うような香りではないのですが、モルト・ウイスキーからこの香りがすると、何故かもう堪らなく魅惑的な香りを感じてしまいます。末梢から入ってくる香気成分そのものは同じはずなのに、付帯する状況（あるいは香り）が違うだけで、こうもガラッと香りの感じ方、あるいは解釈が変わってしまうのが不思議でなりません。

このような状況（あるいは状態）依存的な嗅覚の変化が、嗅覚中枢のどこで起こっているのか？どのようなルールで起こるのか？そんな疑問に答えられる日が来ると信じて、今日も黙々と電気生理実験を続けています。ちなみに実験中はラットも人間もアルコール・フリーですよ。

秋田大学大学院医学研究科医学専攻病態制御医学系細胞生理学講座

村上 学

## 「ムラカミの話」

名古屋大学・劉 紅年様(中山 晋介様)より、

バトンをいただきました。感謝申し上げます。

困った。

私的現状である。Closed mode 状態。人生の岐

路、地方大学医学部の准教授。“ホトケのムラカミ”。忍耐の東北人。“ガンジームラカミ”とも言われた。元来、存在感ゼロの透明人間。誇れる過去なし。化石になる一步手前。

本文は、某地方大学で、“梔子でも動かない”状態に陥った教員が語る寓話である。

## I. ムラカミは灰になるまで男である。(ムラカミ恋愛論)

昔、大学に教養というバラ色の時代があった。ムラカミは医学部所属。専門課程では、お勉強が待っている。2年限定のパラダイス。同年代の異性が魅力的に見えた。朝、10時に“惚れた女学生”を訪ねると、「まだ10時なのに、早すぎる。」と怒られた。人生最高の時代。バクさん(バクテリア)という、元細菌学教授からドイツ語を習った。“Glück”とは“幸福”。つまり、“惚れた女と所帯をもてたような状況”と解説(心の髄で納得)。恋愛感情は容易に視覚化、あるいは数値化できない。“大切なものは眼に見えない”のだ。“眼は口ほどに物を言う”そうだが、ボンクラムラカミには、そのような眼力はおろか、言語認識能力すらない。この分野における生理学の進歩に期待している。個人的には、ノーベル賞より、惚れた異性との結婚の方が、うらやましい。真剣に惚れたことがある。結婚は断られた。しかし、悔いはない。

年月が流れた。その後も苦い人生 goes on。「まだ10時なのに、早すぎる。」と言った人はどうしているだろうか?“彼女の人生に幸多かれ”と、願っている。ドイツ語に“Alte Liebe rostet nicht(若い日の恋は忘れがたい).”という諺がある。「あなたのことは、忘れない」と、彼女は言った。以来、ムラカミは彼女の言葉に値する男であるよう、努力してきた。灰になるまで努力すると、決めている。時々、ムラカミに、“どうして(そんな貧し

く、悪い、地方の研究環境で)ガンバルのか”と聞く人がいる。理由はカンタン、“昔、真剣に惚れたから”。

“Jetzt oder nie (Now or Never).”という諺もある。人生局面で、いくつか決断できなかった事を後悔している。今やムラカミも結婚済。小学3年の愚息は母親似でハンサム(少し悔しく、うれしく、親バカ)。子供のおかげで、自分が進化の中途に生きていることを、毎日実感。愚息はムラカミの太陽だ。

## II. 地方大学・基礎講座の人手不足(ムラカミ地方論)

人手不足の理由…楽しくなさそうだからである(実際に楽しくないという意味ではない)。

どうすれば良いのであろうか。意見は下記の通り。

1. まともな研究ができる体制作り。(一部地方大学の現状は、有名大学の旧石器時代に近い。これではダメだ。有名大学のサテライトや小型コピーもダメ。植民地コロニーではない。その地方に合った独立した研究体制)

2. 国内外教室との真の交流。(この点、基礎は有利)

3. 教室員の将来路線、および脱線時に必要なセーフティーネットの確立。(上に立つ者は、下の人間の将来を真剣に考えること！)

4. 地方で努力している人間が、まともな評価されるシステム。(現状は悲惨)

5. 最低限のランニングコスト。(一人当たりの研究費が年50万円に届かない。これでまともな論文を出し続けるのは、ジャイアンツの長島 miracle を連続爆裂してもムリ)

…以上、全て私見。同僚達は、このようなムラカミを受け入れてくれている(と思う)。感謝している。